

## 令和4年度第2回防災懇談会 要点記録

- 1 開催日時  
令和4年12月22日(木)17時～19時
- 2 出席者  
防災懇談会委員14名(15名中)  
区側出席者14名
- 3 議題等  
東京都の新たな被害想定を踏まえた取組について

### 質疑応答

(委員)

スタンドパイプを新たに街頭に設置することは考えていますでしょうか。管理・運用方法をおしえてください。

(防災計画課長)

スタンドパイプを街頭設置しても、その後活用されなければ意味がありません。地域でスタンドパイプを活用した訓練などを実施し、多くの方に参加していただくことで、地域の皆様に操作方法を知っていただけるものと考えています。

(委員)

マンションに給水用スタンドパイプを設置したときの1台あたりの費用を教えてください。

(防災計画課長)

マンションごとに配管の状況が異なるなど、個々の状況により費用は変わります。そのため、平均的な費用というのは、算出できていない状況です。

(委員)

スタンドパイプの普及は、重要なことだと思います。現在、スタンドパイプは区内に何基配備されていますか。

(区民防災課長)

防災会などの区民防災組織に約250基貸与しています。

(委員)

現状と目標の数値などを資料に記載いただくと、具体的にイメージできより良い議論ができるのではないかと思います。

(防災計画課長)

まちづくりや福祉などの個別の行政計画で具体的な数値目標を示しており、例えば、耐震化促進の

取組は、耐震化促進計画で具体的に示しています。

(委員)

被害想定の死者数の内訳のうち、避難行動要支援者の死者数は約75%を占めており、多いと思います。

避難行動要支援者の死亡率を下げるのが重要な課題と考えますが、具体的な行政の計画を教えてください。

(防災計画課長)

避難行動要支援者対策は、これまでも様々なことを進めてきました。

今後、区では、個別避難計画の作成を進めていくことを考えています。

(委員)

スタンドパイプは一般の方でも訓練すれば操作できるものだと思いますし、消火能力も高いと思います。

さらに多く設置して、訓練にも多くの住民が参加できると良いと思います。

一方で、消火器で火事が防げたというニュースをあまり聞いたことがありません。消火器は活用されているのでしょうか。

(防災計画課長)

今後は、スタンドパイプをより身近に感じてほしいと考えています。学校や公園で行う訓練などを通じて、子どもから大人まで体験していただきたいと考えています。

なお、消火器は令和4年度に入って3件が初期消火で使用されています。

(委員)

スタンドパイプの設置場所について、地域住民は知っているのでしょうか。

(防災計画課長)

現状は、実際に操作をしていただいている防災会にスタンドパイプを貸与しています。格納場所は、防災会が管理する倉庫です。

(委員)

個々のマンションの状況により防災対策が異なります。マンション管理組合が防災対策の相談をしたい場合、窓口がわかりづらいので明確にさせていただくといいと思います。

私が居住するマンションでは、マンホールトイレを設置しないと決めています。

マンホールトイレは、メンテナンスや助成制度が使いづらい、また、下まで降りてくるのが大変という理由のためです。

代わりに、災害用簡易トイレと防臭袋を備蓄しておくよう呼びかけています。

災害用簡易トイレと防臭袋の購入助成制度があるといいと思います。

(防災計画課長)

防災学習センターでは、中高層住宅向け講習会や出前講座を開催していますので、防災学習センタ

ーにお問い合わせいただければと思います。

また、マンションのトイレ対策ですが、どれか一つの対策をすれば完璧というものではありません。災害用簡易トイレもデメリットがあります。例えば、一人1日5回トイレをすると仮定すると、4人家族であれば1日20回分、1週間で140回分、2週間で280回分のゴミが出ます。そのゴミをベランダに置けるのかという課題です。

可能な限り複数の対策をすることが重要と考えています。

(委員)

消火器は、比較的多くの方が使用できるようになっていると感じます。

スタンドパイプもどこに設置して、だれが使用するのか、操作方法を示して、どの程度認知してもらうか、目標を掲げる計画が必要だと思います。

(防災計画課長)

街頭スタンドパイプを実施するとすれば、区内一斉にスタンドパイプを設置していくことは限りある予算の中では現実的ではありません。

また、設置するだけでは効果が発揮されないため、訓練などの啓発の取組とセットで展開していかなくてはなりません。

(委員)

12月の新潟の大雪で、停電などの影響により情報収集が困難となったという事例が報道されました。また、ウクライナでは、イーロン・マスクのスターリンクで情報収集したという報道もありました。

このため、災害時の通信インフラを強化することが重要と考えます。

災害時の自動車を用いた情報通信システム「Vehicle HUB (ヴィークルハブ)」の導入を検討することを提案します。

Vehicle HUB (ヴィークルハブ) は、通信機能を搭載した車両同士をつなぐことにより、災害で公衆通信網が使用できないような環境下において、安否確認や避難誘導支援などを行うことが可能になります。

(防災計画課長)

情報の多重化、通信インフラの強化は重要な課題です。最新の技術については、国や他自治体の動向を見ながら検討していきます。

(防災調整係長)

消火器は、例えば、キッチンで油が引火して火が出てしまった、また、石油ストーブで火が出てしまった時などの初期消火に使用します。

天井まで火が出てしまったら消火器ではもはや消火できません。そうなったらもう家の外に出てください。

この状況で使用するのがスタンドパイプです。この時、スタンドパイプを家の中に入って使用することは危険です。スタンドパイプは家の外から使用します。

スタンドパイプの役割としては、消防が到着するまでの間、少しでも家の中に放水して温度を下げ、延焼拡大を防ぐことです。

マンションなどにある屋内消火栓も、スタンドパイプと役割は同じです。マンションの一室で火事が発生した場合、玄関や廊下側の窓から放水して延焼拡大を防ぎます。

建物一棟全焼するような大規模な火事に対しては、消防車を待つしかありません。

災害時に至る所で火災が発生した場合、消防車が来れる台数も限られています。スタンドパイプで少しでも延焼拡大を防ぐことが重要です。

(委員)

町会・自治会の加入率は20～30%程度であり、防災訓練をしても参加者はいつも同じ顔ぶれです。状況を改善するためには、電子回覧板など町会・自治会のDXを推進することが重要と考えます。以前、ねりまちレポーター制度を活用し、区に連絡したところ、傾いているブロック塀が改善されたことがありました。このように住民の危機意識を向上させる取組も重要です。

避難訓練も学校から強制的に親子参加を呼び掛けるなど、工夫が必要と考えます。訓練しても子どもだけ参加しているケースもありますので、親に対して災害時に自分の子どもを守るのは自分という意識をもっと持ってほしいと思います。

(区民防災課長)

親と子は発災時に別々の場所にいる可能性が高いです。親子一緒に防災を考えてもらうことは重要です。

また、訓練ですが、まずはコロナ流行前に参加規模を戻すことを目標にしています。

参加したいと思えるような、魅力があって、効果的な訓練を検討していきます。

(委員)

消火器やスタンドパイプの操作方法を説明する動画を作るときにも、先ほどお話しがあった、どういった場面で消火器は有効なのかを具体的に説明していただくとわかりやすいです。

(防災学習センター所長)

動画については、今後、防災の備えを学べるオンデマンド動画を作成し、配信していきます。

具体的でわかりやすい動画作成に努めていきます。

(委員)

本日の議論、大変有意義だったと思います。ぜひ委員の皆様は、ご自身の地域の方々に共有していただけるといいのかなと思います。

(委員)

国土交通省は、職場環境改善のために屋外の快適トイレを標準仕様にするよう発表しています。

検討していただければと思います。

(委員)

空巢など災害時の防犯対策も重要と考えます。

(座長)

本日は、貴重なご意見ありがとうございました。